

経営比較分析表（平成29年度決算）

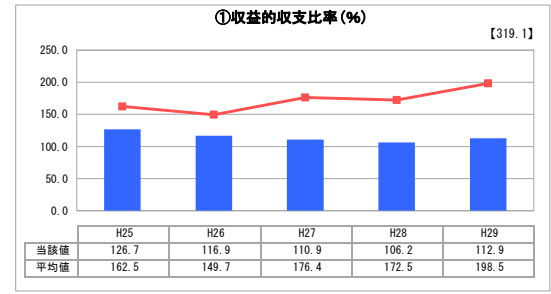
岐阜県中津川市 中津川市駅前市営駐車場

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似施設区分 | 管理者の情報 |
|-------------|---------|-----|-------------|--------|
| 法非適用 | 駐車場整備事業 | - | A1B2 | 非設置 |
| 自己資本構成比率(%) | 種類 | 構造 | 建設後の経過年数(年) | |
| 該当数値なし | 届出駐車場 | 立体式 | 41 | |

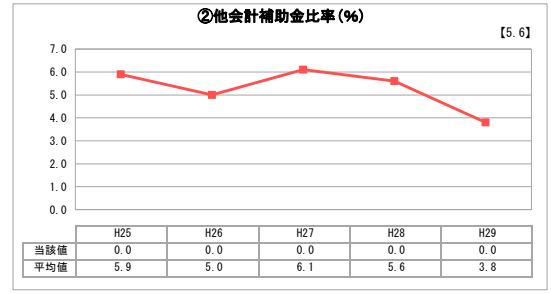
| 立地 | 周辺駐車場の需給実態調査 | 駐車場使用面積(m ²) |
|---------|----------------|--------------------------|
| 公共施設 | 無 | 3,718 |
| 収容台数(台) | 一時間当たりの基本料金(円) | 指定管理者制度の導入 |
| 123 | 200 | 代行制 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該施設値(当該値) |
| — | 類似施設平均値(平均値) |
| 【 | 平成29年度全国平均 |

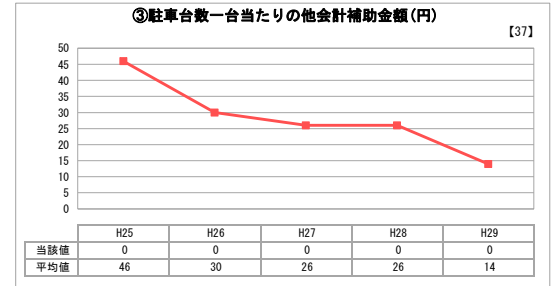
1. 収益等の状況



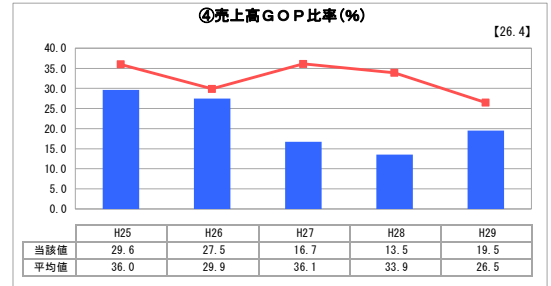
「経常損益」



「他会計補助金割合」

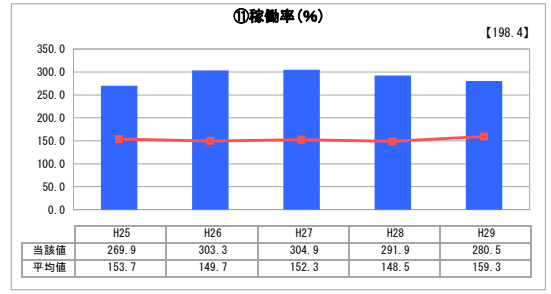


「他会計補助金額」

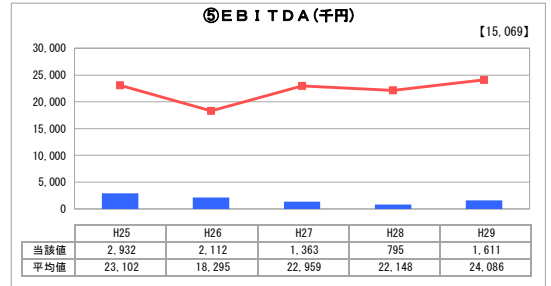


「売上高に対する営業総利益」

3. 利用の状況



「施設の効率性」



「減価償却前営業利益」

分析欄

1. 収益等の状況について
 人件費の値上がりに伴い指定管理料が増えている。さらに建物建設から41年が経過しているため施設の老朽化が激しく、修繕費が年々増加している状況である。近年は近隣の利用料金に上限のある安価な民間駐車場の影響で売上げが減少していたが、当該年度は観光客による利用が増え売上げが増加したため、前年度と比較して収益的比率が若干改善した。

2. 資産等の状況について
 建設から41年が経過し、老朽化が進んでおり、修繕費が年々増加している。今後10年間を目処に事業廃止（民間譲渡）も視野に入れ、検討する必要がある。

3. 利用の状況について
 全国平均及び類似施設平均よりも高い稼働率となっているものの、2時間以内の無料利用者が7割を超えている。近隣の商店街は専用駐車場を保有しておらず、近隣に民間駐車場が出来たとはいえ最初数時間無料といった駐車場はなく、近隣施設利用者には欠かせない施設となっている。

2. 資産等の状況

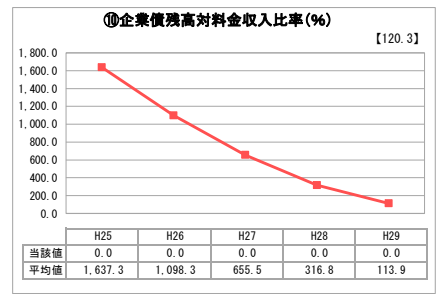


「施設全体の減価償却の状況」

| |
|--------------|
| ⑦敷地の地価(千円) |
| 55,024 |
| ⑧設備投資見込額(千円) |
| 13,000 |



「累積欠損」



「債務残高」

全体総括
 建設から41年が経過し、老朽化が進んでおり、修繕費が年々増加している。修繕費の手当てや収益的収支比率の向上のために、2時間無料の運用の検討とともに、今後10年間を目処に事業廃止（民間譲渡）も含めて、施設について検討していく必要がある。

経営比較分析表（平成29年度決算）

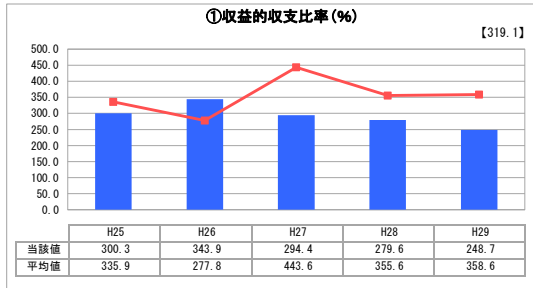
岐阜県中津川市 中津川市駅前広場駐車場

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似施設区分 | 管理者の情報 |
|-------------|---------|-----|-------------|--------|
| 法非適用 | 駐車場整備事業 | - | A3B2 | 非設置 |
| 自己資本構成比率(%) | 種類 | 構造 | 建設後の経過年数(年) | |
| 該当数値なし | 届出駐車場 | 広場式 | 41 | |

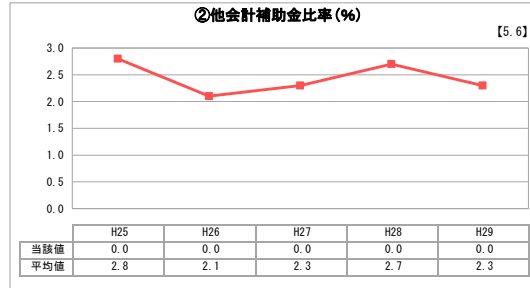
| 立地 | 周辺駐車場の需給実態調査 | 駐車場使用面積(m ²) |
|---------|----------------|--------------------------|
| 公共施設 | 無 | 440 |
| 収容台数(台) | 一時間当たりの基本料金(円) | 指定管理者制度の導入 |
| 18 | 200 | 代行制 |

| グラフ凡例 | |
|-------|--------------|
| ■ | 当該施設値（当該値） |
| — | 類似施設平均値（平均値） |
| 【 | 平成29年度全国平均 |

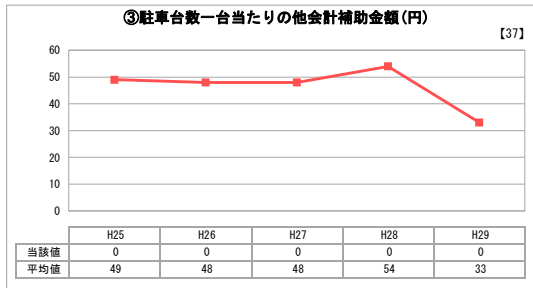
1. 収益等の状況



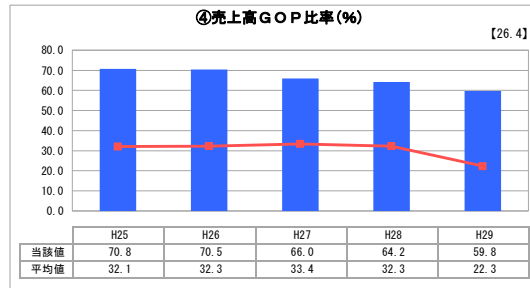
「経常損益」



「他会計補助金割合」

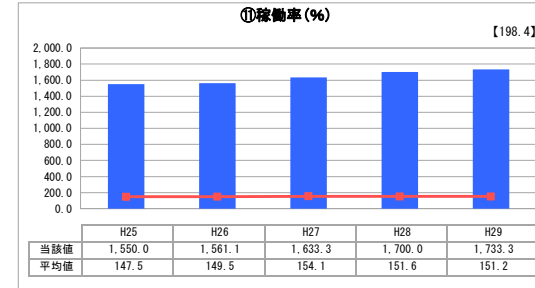


「他会計補助金額」

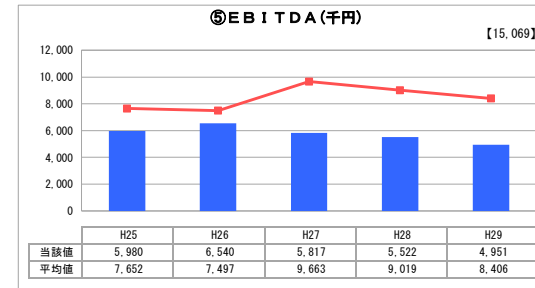


「売上高に対する営業総利益」

3. 利用の状況



「施設の効率性」



「減価償却前営業利益」

2. 資産等の状況



「施設全体の減価償却の状況」

⑦敷地の地価(千円)

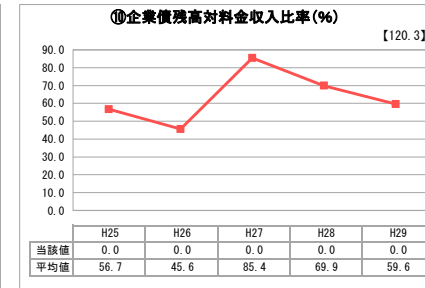
41,983

⑧設備投資見込額(千円)

13,000



「累積欠損」



「債務残高」

分析欄

1. 収益等の状況について
 近隣に利用料金の上限がある安価な民間駐車場ができ、長時間利用者の割合が減ったため売上が減少している。さらに、人件費の値上がりに伴って指定管理料が増えており、収益的収支比率等が右肩下がりとなっている。

2. 資産等の状況について
 平面駐車場であるため、大きな修繕費はかからないものの、建設後41年が経過しており、年々修繕費は増えている。駅前の好立地ということも考慮に入れ、今後10年を目処に、事業廃止等も視野に入れて検討する必要がある。

3. 利用の状況について
 稼働率は右肩上がりとなっているが、入庫後30分間無料を利用する者が7.5割を超え、これは年々増加しているため売上は減少している。通勤・通学の送迎等の待機場としての利用が増えており、また駅周辺施設利用への駐車場としても利用されており、市民にとって必要な施設である。

全体総括
 建設から41年が経過し老朽化が進んでいるため、年々修繕費は増えている。また、人件費は値上がりし、近隣に低料金の民間駐車場が出来ていることから、今後は収益の確保が難しい状況である。稼働率は年々増えているため、今後の駅前再整備とセットで方針を検討していく必要がある。